

## 平成 21 年度経済産業省補助事業

## 「先進的植物工場施設整備費補助金」の採択について

東京農工大学が企画した「高収量健康果樹管理技術開発のための都市型植物工場研究施設整備事業」が、このたび、平成 21 年度経済産業省「先進的植物工場施設整備費補助金」に採択されました。

## ◆概要◆

この事業は、消費需要がありながら供給不足がちなブルーベリーについて、収益性の期待できる植物工場モデルを実現するため、

- ・ ライフサイクルの倍速化等による収量増大
- ・ 周年化により価格が高騰するオフシーズン時の供給
- ・ 高品質果実(大果・高糖度・高抗酸化作用)の安定供給とコスト削減
- ・ 生産性を維持しつつ樹体の繰り返し利用をおこなう樹体健康管理
- ・ 省力自動生産等による果実生産のマニュアル化

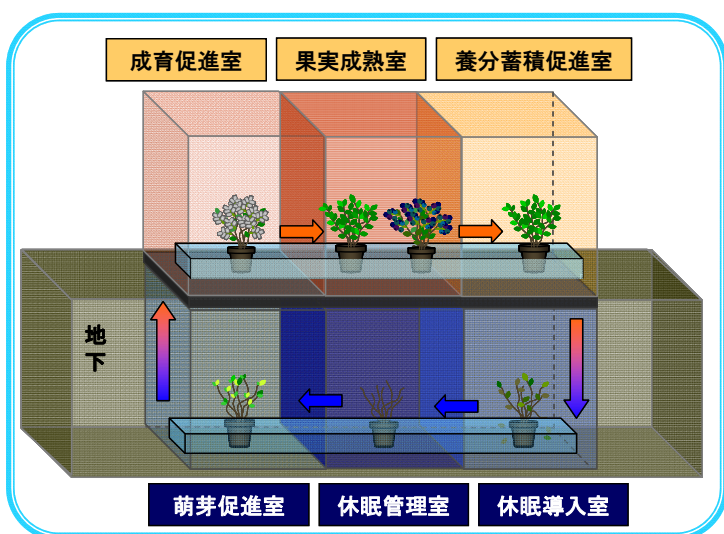
などの研究開発を行うため、太陽光・人工光併用型の先進的な「果樹工場のモデル」実験研究施設を整備するものです。

研究開発成果は、ブルーベリーと同様にポット栽培できる低樹高の果樹全般への展開が可能であり、国内で栽培可能な低樹高果樹について、工場栽培による周年栽培の可能性が開けます。

■ 事業名称 「高収量健康果樹管理技術開発のための都市型植物工場研究施設整備事業」

## ■ 施設の概要

- 1 設置場所 東京都府中市幸町3-5-8 東京農工大学 農学府内
- 2 施設名称 農工大ブルーベリーキャンパスファクトリー (仮称)
- 3 敷地面積 約590㎡
- 4 施設の構造 地上1階、地下1階の2階建構造



施設概念図



適切な環境制御により高品質・多収のブルーベリー果実生産を目指す

#### ◆本学とブルーベリー◆

我が国にブルーベリーが導入されたのは1951年で、当時の農林水産省北海道農業試験場が米国からハイブッシュブルーベリー（比較的冷涼な気候を好む栽培種）を導入したのが始まりです。一方、暖地に適応するラビットアイブルーベリーは、1962年に農林水産省によって導入され、それを譲り受けた「日本のブルーベリーの父」といわれる故・岩垣駿夫（いわがき はやお）先生（元福島県園芸試験場長、元本学農学部教授）が、1964年3月に本学へ着任し、本学の果樹園で生産開発に関する研究（品種特性、受粉、結実、繁殖に関する基礎研究）を行いました。本学とブルーベリーの歴史はここから始まります。

その後、岩垣先生の教えを受け継いだ本学卒業生によって、普及活動が行われ、特に、島村速雄氏（現・小平市議会議員）は初めてブルーベリーを民間で栽培し、東京都のブルーベリーの普及に貢献し、小池洋男氏（元長野県果樹試験場長・本学非常勤講師）は長野県にブルーベリーを普及するとともに、元本学農学部助手の石川駿二先生と共著で「ブルーベリーの作業便利帳」（石川駿二・小池洋男、農文教出版）などの栽培に関する本の出版によってブルーベリーの全国的普及に貢献してきました。また、1994年には日本ブルーベリー協会が東京で設立され、現在、協会長の職を元本学農学部教授で名誉教授の志村勲先生が務められています。志村先生は設立当初からブルーベリー協会の活動に貢献しています。

このように本学は、戦後の我が国のブルーベリー研究・普及の中心的な存在であり、40年以上に渡り、アメリカなどから品種を導入して、現在では日本で最も多くの品種を遺伝資源として保存し、最近導入した品種を含め64品種の特性解析した論文（車・荻原ら、園芸学研究、2009）を公表しています。また、東京都農林総合研究センターと東京農工大学は共同研究を行い、研究成果の発表は園芸学会を中心に行っています。

#### ◆本件に関する問い合わせ◆

- 東京農工大学大学院 共生科学技術研究院生命農学部門 教授 荻原 勲  
TEL:042-367-5854 FAX:042-367-5854 E-Mail:hortsoci@cc.tuat.ac.jp
- 東京農工大学 府中地区事務長 一杉 和良  
TEL:042-367-5653 FAX:042-360-8830 E-Mail:a-zimuch@cc.tuat.ac.jp